

VII. 自己点検評価委員会報告

平成 17 年度の上半期は、自己点検の一環として年報の冊子体作成とホームページ掲載を行った。自己点検評価は来年度（平成 18 年度）と合わせて 2 年間で、共同利用研究の実施状況と成果を行うこととした。平成 17 年度は共同利用研究実行委員会の協力で、過去 10 年間の実施リストを作成した。それによると、延べ約 1700 人が共同利用研究を実施した。また、図書が作成した図書検索データベースに、過去提出された共同利用研究の成果が掲載されている。現在未掲載の成果の掘り起こしを行っている。大学評価委員会では、「国立大学法人及び大学共同利用法人評価」ならびに「大学機関別認証評価」の準備を進めている。

自己点検評価委員会：平井啓久(委員長)、上野吉一、
杉浦秀樹、本郷一美、田中正之、茂原信生(所長)
(文責：平井啓久)

VIII. サル所外供給（有償）事業

従来共同利用研究の一環として行っていた「サル所外貸与」を廃止し、平成 17 年度より有償の「サル所外供給」を開始した。

開始に先立って、平成 16 年度に所外供給アドホック委員会を発足させ、申請要項ならびに申請書類等を作成した。所外供給の理念として「霊長類学研究の発展ならびにサル類に対する適切な実験利用心得（「サル類の飼育管理および使用に関する指針」）の普及の推進」を掲げた。

第 1 回の供給として、平成 17 年 12 月 27 日～平成 18 年 1 月 27 日の 1 ヶ月間、ホームページにコモンマーモセットのオス 2 頭、ワタボウシタマリンのオス 2 頭の供給個体を提示し、申請を受け付けた。その結果、コモンマーモセット 2 頭を希望する申請が 2 件あったが、委員会での協議に基づいて、1 申請者に対してコモンマーモセットのオス 2 頭を供給することとした。

平成 17 年度サル所外供給委員会：平井啓久(委員長)、
景山節、友永雅己、大石高生

(文責：平井啓久)